

少年少女のための 日本の歴史物語 第四巻

原著 少年國史物語 第四巻 室町・安土桃山時代

前田晁 著 A5 版 332 頁+付録

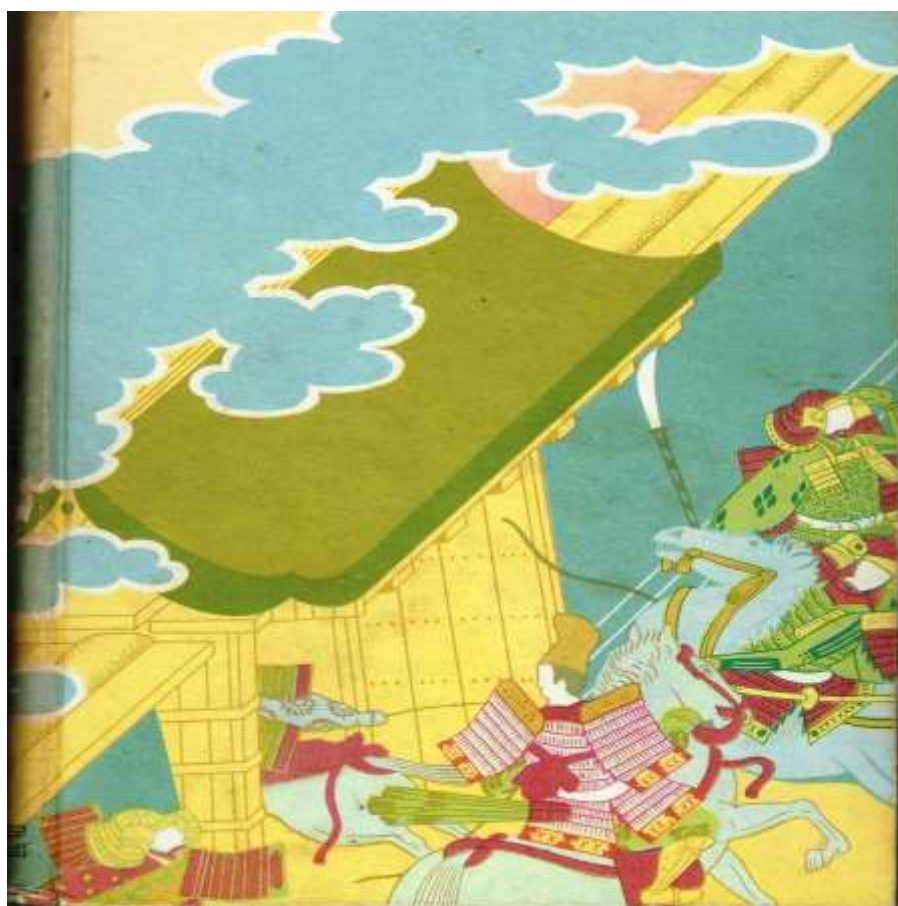
昭和 12 年 早稲田大学出版部発行、 1 円 20 銭



原本の表紙



ごようぜい じゅらくだいぎょうこう
後陽成天皇の聚楽第行幸



裏表紙

第四巻 目次

頁数

第1話 室町幕府の盛時

6

足利氏の開いた室町幕府は義満の時代が最も盛んでしたが、それには管領細川頼之の補佐の功が多かった。義満は奢りを極め、僭上な行いが多かった上に、我が国体をも蔑ろにした。

第2話 関東管領と永享の乱

4

東国を治めるために置いた鎌倉の関東管領が、勢力を得るにつれて京都の本家を軽んじて、事毎に幕府に反対するようになる。終いに、ここでも足利氏に付き物の内輪喧嘩を始めて、やがて関東管領家は亡びる。

第3話 嘉吉の乱と幕府の衰微

5

将軍 義持の時からすでに衰え始めた室町幕府は、義教が殺され、義政が悪政を行うに及んで全く衰える。そのころの通用語であった「下克上」が示しているように、到る処で下の者が上を凌ぐようになる。

第4話 応仁の乱

11

幕府の威信が失せて、権臣の跋扈を制することが出来なくなったために、彼等同士のあいだの反目、確執が烈しくなり、それに将軍家及び管領家の家督争いが絡んで、ついに応仁の大乱となる。

第5話 室町時代の文化

6

戦乱の世であったにもかかわらず、ある種の文物は進歩した。この時代の特色は、鎌倉時代の剛健な気風が失せたあとに京風の優美さが加わって、一種の淡白な消極的なものとなったところにある。

第6話 関東の動乱

5

群雄の割拠に先きだち、関東が分裂して、足利氏は古河公方と堀越公方とに分かれる。管領家の執事である上杉氏もまた山内と扇谷の二家に分かれて、互いに勢力を争う。

第7話 後北條氏の崛起

6

関東の動乱の中に一介の浪人が飛び込んで、忽ちめきめきと頭を擡げる。北條早雲の出世がこれで、その子孫は、ついに関東地方の大半を治めるようになる。

第8話 両上杉の滅亡

7

新興の北條氏にますます圧迫された両上杉氏は、同族相争うことの不利を悟って、相和して敵に当たったが、時すでに遅く、ついに全く戦いに敗れて、扇谷家が先づ亡び、ついで山内家もまた亡びる。

第9話 上杉謙信と武田信玄 15

義侠に富んだ越後の謙信と智謀に長けた甲斐の信玄とが、しばしば戦って、ついに川中島の戦い。 兩人共に上京の志を抱きながら、互いに相妨げられて、ついにその志を果たさずに終わる。

第10話 毛利氏の興起 10

川中島の第一回戦と同じ年に起こった安芸の厳島の戦い。 名族の大内氏及び尼子氏を忽ちのうちに滅ぼして、毛利元就が十余カ国の領主となる。

第11話 京都の疲弊 7

豪族の割拠が全国にわたって、幕府の威令が全く行われなくなったために、朝廷の御衰えも甚だしかったが、歴代の天皇は、そういう際にもなお専ら万民をあわれみられた。

第12話 邦人の海外進出 2

中国人が大いにおそれた倭寇

第13話 西洋人の渡来 14

見慣れぬ船が大隈の種子島に漂着する。ポルトガル人から鉄砲が伝わる。

第14話 キリスト教の伝来 4

イスパニアの宣教師からキリスト教が伝わる、主として九州地方に迅速に大いに広まる。

第15話 織田信長の入京 9

桶狭間の一戦に今川義元の大軍を破って、頓に武名をあげた織田信長が、戦国時代の英雄の理想を真っ先に実現して入京する、信長の勤王。

第16話 足利将軍の滅亡 16

しだいに近畿の諸国を平定して、信長の威名がますます高くなると、将軍義昭は自分の地位に不安を感じて、信長を除こうとする。しかし、却って逐われて、室町幕府は名実共に亡ぶ。

第17話 織田信長の四方征伐 6

足利氏が亡びると、信長が代わって天下の政治を執ることとなる。彼は城を近江の

あづち きづ しほう せいぼつ
安土に築いて、更に広く遠く四方の征伐を始める。

第18話 本能寺の変

4

すでに武田氏を滅ぼして、東方を平定した信長は、まさにその勢いを以って西南の
征服に向おうとする。しかし、たまたま明智光秀のために弑せられて、全国平定の業
が半ばにして挫ける。

第19話 山崎の戦い

5

備中にいた羽柴秀吉が、疾風の如くに兵を収めて東上して、山城の山崎に逆心
明智光秀を破る。秀吉の威名が一時にあがる。

第20話 賤嶽の戦い

5

兄の信雄と互いに権を争った織田信孝と共に、秀吉の威名を忌んで除こうとした
柴田勝家が、賤嶽の戦いに敗れて、亡ぶと、その後はもはや織田氏の武将で秀吉に
対抗する者が無くなる。

第21話 豊臣秀吉の国内統一

11

秀吉は堅固な城を大阪に築いて、ここを根拠地とする。南に、北に、西に、東に、
あるいは兵を出し、あるいは親ら征して、たちまち全国を平定する。
久しぶりに見る昇平の日、秀吉の勤王と栄達。

第22話 豊臣秀吉の朝鮮征伐

8

国内が平定すると、秀吉は眼を海外に向ける。文禄の役。慶長の役。
大いに朝鮮を征伐して、戦いに勝つが、外交に敗れて、ついにその目的を達する
ことは出来ずに終わるが、国威を海外に発揚した。